

# 産業建設常任委員会報告

委員長 南雲 正

## 議会中以外に行われた委員会報告

平成23年5月26日

### 1 観光振興対策

①雪国観光圏の展開について  
3県7市町村で構成された雪国観光圏は観光庁発足と同時に認定され、滞在型観光を目指し事業を実施している。観光の地域づくり、共同プロモーション、インバウンド誘致と受入体制整備、企業との協働事業、着型旅行商品造成販売等に取り組

み、高い評価を受けている。今年度からは、国の方針が着型旅行商品の造成販売を行う組織づくり（観光地域づくりプラットフォーム）の支援に変わり、プラットフォーム第1号として雪国観光舎を設立し、着地型旅行商品を扱う旅行者として事業を開始しているという説明があり、委員からは雪国観光舎の展開と地域の理解、

位置づけ、インバウンドの対応等について多くの質疑が出された。

②観光協会の法人化について  
昨年の理事会で協会内部にプロジェクトチームを設け、最重要課題として広範囲な議論と対策を検討することが決定し、平成22年度総会において承認された。

観光協会の総務委員会（会長・副会長・専務理事・常務理事・事務局）が法人化検討委員会をつくり検討した結果「一般社団法人」として専務理事を中心に設立準備を進めており、7月上旬に設立予定となっている。法人設立までは暫定予算で対応しているという説明があり、委員からは雪国観光舎業務との兼ね合い、組織の在り方等について質疑がなされた。

③湯沢夏観光の展開について  
ゴールデンウィークには観光客が戻ってきたがその後は厳しい状況が続いているが、

夏観光展開の目標として、安全安心な観光地のイメージづくり、社員研修や教育旅行等の誘致、JRと連携したタイアップ企画、湯沢の山・川・等を利用した遊びの提案、フジロックフェスティバルと連携した誘客、雪国観光圏と連携した誘客、旅行商品、イベント、地域の食、涼、温泉等官民一体になった情報発信等7項目が示された。

委員からは具体策等について質疑がなされた。

2 平成23年度産業観光課、地域整備課、上下水道課の事業概要について  
担当課長から、先般各家庭に配布された平成23年度予算の概要（今年のお金の使い道）に沿った説明があり、委員からは内容の詳細を求める質疑や要望が出された。

### 3 三俣振興対策

①道の駅建設計画の進捗状況について  
道の駅用地4、300㎡（国

3、000㎡、町1、300㎡）の事業認定を取得し、用地交渉に入る。6月上旬に設計が上がる予定であり、その後本体建設に入り来年秋オープン予定である。運営管理については三俣地域にお願いするということと三俣未来まちづくり協議会にお願いしているという説明があった。

委員からは「三俣地域に運営を任せるのであれば、施設ができてから三俣地域にお願いするのではなく、運営する三俣地域が求める施設を作るべきではないか。」「道の駅の運営管理について三俣地域とのコンセンサスは取れているのか。」「道の駅建設計画に遅れはあるか。」等の質疑があり、担当課からは「施設の内容は三俣未来まちづくり協議会と検討している。管理運営は三俣未来まちづくり協議会が募集し、調整する予定である。まちづくり協議会の役員には三俣地区の各町内会長も入っているの

で三俣地域の総意として、今後協議会対応を進めて行く。本年秋オープンを予定

していたが1年遅れで来年秋オープン予定である。道の駅の登録は管理者が決まっていなくて早急に決めた。来年春道の駅登録を指したい。」という説明があった。

②下水道整備計画の進捗状況について  
下水道の認可が取れていないため、下排水路整備は街なみ景観整備事業で実施している。認可がないと八木沢地区に予定している処理場の基本設計ができないので、新潟県と認可取得の協議を急いでいる。

下排水路整備は既に埋設されている温泉管移設後に今年度分を発注することとなる。下水道の共用開始は平成28年4月を予定しているという説明があり、委員からは「街なみ景観整備事業による下水道整備の範囲は」等の質疑があり、担当課からは「現在やっている下排水路整備だけが街なみ景観整備事業であり、今後は下水道整備事業でやることとなる」という説明があった。